

令和元年度 第2回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 令和2年2月18日（火）午後3時00分～午後4時45分
2. 場 所 大和市文化創造拠点シリウス 2階会議室
3. 出席状況 委 員10名（深澤会長、鎌田委員、小林委員、鈴木委員、中島委員、橋本委員、服部委員、伏見委員、吉川委員、米屋委員）
事務局5名（文化振興課長、文化振興係4名）
4. 傍聴人 なし
5. 議 題
 - 1 開会
 - 2 文化振興事業について（報告）
 - ・モニタリング項目の現状値について
 - ・令和元年度文化振興事業について
 - ・「大和文化百花プロジェクト」の進捗について
 - 3 その他
 - 4 閉会
6. 会議資料
 - 資料1 モニタリング項目の現状値
 - 資料2 令和元年度文化振興関連事業
 - 資料3 大和文化百花プロジェクトの進捗について

【会議要旨】

1 開会

2 文化振興事業について（報告）

- 事務局から、「モニタリング項目の現状値について」説明。
 - 事務局から、「令和元年度文化振興事業について」説明。
 - 事務局から、「大和文化百花プロジェクトについて」説明。
- 委 員：「大和文化百花プロジェクト」は革命的な取り組みで評価できる一方、ネットリテラシーの観点から様々なリスクも内在していると思う。投稿するにあたっての注意事項はあるのか。
- 事務局：著作権や肖像権、公序良俗に反するもの、撮影禁止場所で撮影したものは投稿を遠慮いただく旨をチラシの裏面に記載しており、類似した自治体の様々な活動の注意事項を参考に作成してある。
- 委 員：投稿内容のチェック機能はあるのか。
- 事務局：インスタグラム、ツイッターの投稿自体は、すぐに公開されてしまうのでチェックができない。大和文化百花プロジェクトのホームページに掲載しているインスタグラムの投稿は、大元の投稿から抜粋して掲載しているため、ホームページ掲載のチェック機能は働いている。
- 委 員：「#大和文化百花」は、漢字6文字が並んでいて、なんとなく堅いイメージがある。「やまと」を平仮名にすれば柔らかいイメージになるのではないか。
- 事務局：このプロジェクトを開始するにあたって、大和文化百花プロジェクトチームの比較的若い

世代のメンバーに図った結果、「大和文化百花」に決定した経緯がある。

委員：大和駅からシリウスに向かう図書館の道（プロムナード）が、広い空間が取られていて素晴らしいと感じた。これから様々な都市計画が策定されていくと思うが、大和市としてのこの広い空間を維持してほしい。

事務局：図書館の道（プロムナード）には、イラストコンペ入賞者の作品をフラッグにして街路灯に設置したり、春と秋限定ではあるが、フラワーハンギングを設置するなど、文化の観点からも街の賑わいづくりに取り組んでいる。

委員：街並みや景観をコントロールしているのは文化振興課ではないのではないか。文化振興課として、街並みや景観についての意見を言える機会はあるのか。

事務局：街づくり推進課が所管している。現状、文化振興課が意見を言える場はない。

委員：図書館の道（プロムナード）で、骨董市を実施しているのは知っているが、文化的イベントを実施したことはあるのか。

事務局：市が主催している青空将棋のほか、市が主催ではないが、世界料理の屋台村や阿波踊りなどが行われている。

委員：今後、行政が行う都市計画に、文化振興課が文化的視点でもコミットできる仕組みができると良い。

委員：文化芸術振興基本計画の施策目標2「地域の文化を大切に守り、次代につなぐ」に関して、文化振興を目的とした計画だけで広めようとしていることに難しさがあるように思う。先日、観光協会で実施した市民が参加するバスツアーで、下鶴間ふるさと館とつる舞の里歴史資料館にも立ち寄ったところ、参加者の反応がとても良かった。施設の存在を知らなかったという声や、またゆっくり訪れたいという声が多かった。文化振興という視点からだけではなく、多角的なきっかけづくりをしていくことが、施策目標を実現させる手段になるのではないかと。観光協会としても、文化の発展に寄与できることもあると思うので、取り組んでいきたい。

委員：お散歩MAPのようなものを作成して、文化的施設を点と点で結び付けられる取り組みが必要。

事務局：シリウスという拠点ができしたが、今後は、シリウスを拠点とする広がり、面の広がりをどのように作っていくかが課題と捉えている。市民のつながりや広がりを意識した取り組みを行っていきたい。

委員：「故きを温ねて新しきを知る」が基本であると思う。歴史があって素晴らしい街ができている。考古学や歴史は地味な印象があるが、点と点を結び付けていくことができれば、十分に認知を広げられると思う。土日にはほぼ毎週、何かしらのイベントが市内で行われている。それらの点もつなげられるような取り組みができると良いと感じている。また街づくりの話についても、街づくりを議論する審議会などもあるが、机上の議論だけではなく、地域の人たちが動かなければ何も実現しない。市民によるボトムアップが必要。みんなでどのように街づくりをしていくか議論していくことも重要だと思う。

委員：大和文化百花プロジェクトチームのボランティア参加が3人というのはやや寂しい。

委員：ボランティアセンターなどと連携して、ボランティアを集めていないのか。

事務局：大和文化百花プロジェクトチームの目的が、人材育成というものであり、イベント自体で人手が足りないという状況ではない。人数を多く確保するということは重要ではあるが、そこを目的としていないため、連絡先を把握しているプロジェクトチーム内15人程度へのアプローチに留まっている。ただ、プロジェクトチーム自体の人数を増やすことが今後の課題と認識している。

委員：意見交換会は2回実施しているが、参加した11人は同じメンバーか。

事務局：ほぼ同じメンバーである。

委員：音楽家協会が実施しているコンサートでは、受付などのスタッフが不足しており、ステージに立つ演者が交代で受付などを行っているのが実情である。各団体で、ボランティア集めに困っている現状もあると思うので、ボランティアを受け入れる環境はたくさんあると思う。過去、中高生がお手伝いに来てくれたことがあり、バックステージでの業務を体験してもらったところ、とても喜んだ。受付などの業務よりも、普段見ることができないバックステージなどの業務を担ってもらうことができれば、参加希望者も増えたり、体験後に様々な文化的活動に興味を持ってもらえるきっかけになるのではないかと。市が管理してもらえると、子どもの保護者に対する信頼度も高まり、人数も集まるのではないかと。と思う。

事務局：これまで、ボランティアをお願いする側として、あまり大変な作業はお願いしない方が良く、こちら側も遠慮していたところもある。もう少し参加する側のニーズも把握しながらお手伝いいただく場を設定していきたい。

委員：バックステージのボランティアについては、プロでもとても気を使うほど危険も多い。バックステージの業務を担わせることは大きなリスクを伴うため、市民のボランティアという観点からすると、裏方ではなく表方の業務を担ってもらうことが最善と感じる。もちろん、裏方の業務を知ってもらえる道筋を作っておくことも重要で、希望があればそのような道に進んでいける環境はあって良い。ただ、ボランティアマネジメントはとても複雑で大変な業務であり、それを行政の立場で担えるのか精査が必要かと思う。

委員：シリウスのホールでは、バックステージツアーなどを実施しており、そこから興味のある人を集めていけると良い。

委員：リハーサルツアーなどの方法もある。本番に向けて色々なプロセスを知ってもらうこともきっかけづくりとして良いのではないかと。

委員：市が主催する事業でも、ボランティアに対してやりがい提供できると、モチベーションも変わってくる。そういう機会を作れるイベントも実は多くあるように思う。

委員：意欲的な若いパワーを掘り起こしていくかというのが課題と感じる。ぜひ、その取り組みを検討してほしい。

3 その他

○伏見委員より、シリウス運営審議会の報告

○服部委員より、市内出身芸術家の情報提供

○市から次回開催日程について説明。

4 閉会